

第 15 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.03
	大正			

[問題 1]

第一次世界大戦後におこった民族運動・独立運動について、次の各問いに答えよ。

- (1) 朝鮮で「独立万歳」をさけんでデモ行進を行い、日本からの独立をめざした運動を何というか。
- (2) 北京の学生たちが抗議の運動をおこしたのがきっかけで、列強諸国の他国を支配していくやり方に反対する国民運動がおこった。これを何というか。
- (3) 非暴力・不服従を唱え、独立運動を指導したインド人は誰か。

[解答欄]

(1) 三・一独立運動	(2) 五・四運動	(3) ガンディー
-------------	-----------	-----------

[解説]

1919年 朝鮮で	三・一独立運動
1919年 中国で	五・四運動
→ 孫文が国民党を結成	
インドで独立運動	ガンディーの非暴力・不服従

日本の植民地支配のもとに置かれていた朝鮮では、1919年3月1日、ソウルで独立をめざす知識人や学生らが日本からの独立を宣言する文章を発表し、人々は「独立万歳」をさけんでデモ行進を行った。これに刺激された独立運動は、朝鮮全土に広がった。これを三・一独立運動という。日本は軍隊を動員してこれを鎮圧した。

1919年、ベルサイユ条約でドイツの中国における権益を日本が引き継ぐことが認められたため、中国の反日感情が爆発した。1919年5月4日の北京での学生集会をきっかけに、中国国内で反日運動がおこり、さらに帝国主義の侵略に反対する国民運動へと発展した。これを五・四運動という。

この運動をきっかけに、孫文は中国国民党を結成し、1921年に結成された中国共産党とともに、民族の独立と国家の統一をめざす運動をくり広げた。

インドでは、戦争に協力すれば自治を認めるという約束をイギリスが守らなかったため、非暴力・不服従を唱えるガンディーを指導者として、独立運動がおこった。

[問題 2]

次の文中の()に適語を入れよ。

1912 年、藩閥勢力の桂内閣が議会を無視する態度をとったとして新聞人や知識人が(①)運動をおこし、それが各地に広まり、翌年、内閣を退陣させた。これを第一次護憲運動という。大正時代は、民主主義がとなえられ、自由主義の風潮が高まった時期であったが、このような風潮を(②)という。(③)は普通選挙によって民意を政治に反映させるべきとする(④)主義を唱え、(⑤)は天皇機関説を唱えた。

1918 年、商人や地主による米の買い占めから(⑥)が全国に広がり、藩閥内閣が倒れて、(⑦)を首相とする最初の本格的政党内閣ができた。

(⑦)内閣の後、ふたたび非政党内閣が続き、その間の 1923 年には(⑧)という大災害が起こったが、1924 年、政党勢力は、普通選挙の実施などを主張して第二次護憲運動を起こし、1925 年には憲政会の加藤高明内閣が成立した。この内閣のもとで、1925 年、(⑨)法が成立し、(⑩)以上のすべての(⑪)に選挙権が与えられた。一方、これによって共産主義者が勢力を伸ばすことを恐れた政府は、同時に、(⑫)法を制定して、天皇を中心とする国の組織や私有財産制度の廃止をめざす共産主義の取り締まりを強化した。

[解答欄]

①憲政擁護	②大正デモクラシー	③吉野作造	④民本
⑤美濃部達吉	⑥米騒動	⑦原敬	⑧関東大震災
⑨普通選挙	⑩25	⑪男子	⑫治安維持

[解説]

1912年 第一次護憲運動→桂内閣の退陣 大正デモクラシー 吉野作造の民本主義 美濃部達吉の天皇機関説
1918年 米騒動→原敬の政党内閣
1924年 第二次護憲運動→加藤高明内閣
1925年 普通選挙法(25歳以上のすべての男子に選挙権) 治安維持法(共産主義の取り締まり)

1912 年、藩閥勢力の桂内閣が議会を無視した政治を行ったので、新聞人や知識人が憲政擁護運動を起こした。それを支持する運動(第一次護憲運動)が各地に広がり、翌年、桂内閣を退陣させた(大正政変)。第一次護憲運動に始まり、政党政治の発展をみた大正時代は、民主主義がとなえられ、自由主義の風潮が高まった時期であった。このような風潮を大正デモクラシーという。吉野作造は「選挙によって民意を政治に反映させるべきである」という民本主義をとなえ、美濃部達吉は「国家の主権は国家にあり、天皇は国家の機関の 1 つである」という天皇機関説をとなえた。

1918 年、シベリア出兵を見こした商人の米の買い占めによって、米は異常な値上がりが続けた。富山県の漁村の主婦たちが、米の県外への積み出しを実力で止め、安売りを求める事件が起きた。新聞でこれが報道されると、全国各地で米の安売りを求めて民衆が集まり、米屋・金貸し・大商店におしかけるなどはげしい行動を起こした。これを米騒動という。

米騒動の結果、藩閥内閣が倒れて、原敬を首相とする最初の本格的政党内閣ができた。しかし、原敬内閣は、社会運動には理解を示さず、普通選挙も時期尚早として、選挙権の納税条件を引き下げただけであった。

原敬内閣の後、ふたたび非政党内閣が続いたが、1924 年、政党勢力は、普通選挙の実施などを主張して第二次護憲運動を起こし、1925 年には憲政会の加藤高明内閣が成立した。1925 年、加藤高明内閣は、**普通選挙法**を成立させた。普通選挙法は、それまでの納税額による選挙権の制限を撤廃したところに特徴があり、**25 歳以上のすべての男子**に選挙権が与えられた。(普選は制限解く符号(1925)) 一方、これによって共産主義者が勢力を伸ばすことを恐れた政府は、同時に、**治安維持法**を制定して、天皇を中心とする国の組織や私有財産制度の廃止をめざす**共産主義の取り締まり**を強化した。

[問題 3]

米騒動後に成立した本格的な政党内閣の①首相は誰ですか。また、その②政党名は何ですか。

両方とも下の[]から選びなさい。

- ① 首相 [加藤高明 原敬 寺内正毅 吉野作造]
② 政党名 [自由党 立憲改進黨 立憲政友会 憲政会]

[解答欄]

① 原敬	② 立憲政友会
-------------	----------------

[問題 4]

資料を見て各問いに答えよ。

(資料Ⅰ)

元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。他によって生き、他の光によってかがやく、病人のように青白い顔の月である。わたしたちはかくされてしまったわが太陽を今や取りもどさなくてはならない。

(資料Ⅱ)

全国に散在する部落の人々よ、団結せよ。ここにわれわれが人間を尊敬することによって、みずからを解放しようとする運動をおこしたのは当然である。われわれは、心から人生の熱と光を求めるものである。人の世に熱あれ、人間に光あれ。

- ① 労働者の地位向上をめざして、労働条件の改善などを求めて運動することを何というか。
- ② 1922年に京都で結成され差別からの解放をめざした団体を何というか。また、それに関連のある資料は、資料Ⅰ、Ⅱのどちらか。
- ③ 青鞥社を結成して、女性解放を唱えてきた人物は誰か。また、それに関連のある資料は、資料Ⅰ、Ⅱのどちらか。

[解答欄]

①労働運動	②全国水平社、資料Ⅱ	③平塚らいてう、資料Ⅰ
-------	------------	-------------

[解説]

労働運動, 小作争議
 部落解放運動: 全国水平社
 女性運動: 平塚らいてうの青鞥社

大正時代にはさまざまな民衆運動が高まった。労働運動では、日本労働総同盟が労働者の団結と解放を目指して労働争議を指導し、1920年5月1日には労働者の祭典であるメーデーが行われた。

農村でも、小作料の減免を要求する小作争議がひんぱんにおこった。

差別からの解放を求めてきた被差別部落の人々は、1922年に全国水平社を結成し、「全国に散在する部落の人々よ、団結せよ。…」という水平社宣言を発表した。

女性差別からの解放をめざす運動もさかんになり、平塚らいてうを中心にして青鞥社が結成され、「元始、女性は実に太陽であった。…」という宣言を出した。

[問題 5]

次の各問いに答えなさい。

- (1) 人道主義の理想をかかげた武者小路実篤や、志賀直哉らが、創刊した雑誌を何といいますか。
- (2) 知性的な作品で人々に新鮮な印象をあたえた、右の写真の人物の名を答えなさい。



[解答欄]

(1) 白樺	(2) 芥川龍之介
--------	-----------

[解説]

白樺派:志賀直哉, 武者小路実篤
 新思潮派:芥川龍之介「羅生門」
 プロレタリア文学:小林多喜二「蟹工船」

大正時代の文学については、まず、白樺派をあげなければならない。志賀直哉は人道主義の理想をかかげ、武者小路実篤らとともに雑誌「白樺」を創刊した。

また、新思潮派の芥川龍之介(小説「羅生門」で有名)は、知性的な作品で人々に新鮮な印象をあたえた。さらに、社会・労働運動の高揚にともない、小林多喜二(「蟹工船」)などのプロレタリア文学もおこった。

[問題 6]

次の(1)～(4)にあてはまる人物を下の[]から選べ。

- (1) 民本主義を唱え、普通選挙によって民意を政治に反映させることなどを主張した。
- (2) 白樺派の文学者で、人道主義の理想をかかげた。
- (3) 労働者の生活をえがいた作品をあらわし、プロレタリア文学をおし進めた。
- (4) 1918年に政党内閣を組織した、立憲政友会の総裁。

[板垣退助 小林多喜二 芥川龍之介 吉野作造 原敬 西田幾太郎 志賀直哉]

[解答欄]

(1) 吉野作造	(2) 志賀直哉	(3) 小林多喜二	(4) 原敬
----------	----------	-----------	--------